

## 【株式相場レポート】

### ～今週も米国発で一進一退～

	9日終値	前週末比
日経平均(円)	21,469.20	+287.56
ドル(円)	106.67-68	+0.94
NYダウ(ドル)	24,895.21	+357.15
長期金利(%)	0.045	-0.018
NY原油(ドル)	60.12	-1.13

※NYダウ・NY原油は8日終値、ドル・長期金利は9日15時現在

### 今週の総括

#### ★米通商政策関連と北朝鮮との首脳会談発表に一喜一憂する展開も全体に若干弱い印象

##### 今週のプラス材料

- ・米政府が北朝鮮との首脳会談について発表
- ・TPP11正式署名
- ・ドイツで連立政権合意、中国全人代6.5%成長目標維持

##### 今週のマイナス材料

- ・米通商政策を巡り貿易摩擦への懸念拡がる
- ・金融庁、仮想通貨7社を行政処分  
(顧客保護や信頼回復につながるなら長期的にプラス)

今週の日経平均は、引き続き米国株に連動も、後場弱含む日もあり、少しジリ貧傾向が感じられつつある。

先週1日に米トランプ大統領が鉄鋼とアルミに輸入関税引き上げと輸入制限を課す方針を発表すると、貿易摩擦への懸念が台頭し、日米ともに株価が軟調となった。その後、関連報道や要人発言により米株式市場の市場心理が一進一退となり、日本株も連動する動きとなった。9日に米政府が北朝鮮との首脳会談について発表すると日経平均は一気に上昇したが、すぐに弱含んだ。米通商政策も米朝首脳会談もまだ結論が見えないことや、米雇用統計など重要指標発表前の様子見モードもあり、買いが続かなかった印象。

業種別にみると、医薬品、食品、建設、通信などの内需系と精密が堅調な一方、鉄・非鉄、自動車、商社、海運、銀行、電力・ガスが弱い。米通商政策の影響を受けそうな業界が売られ、関係性の低そうな内需株に資金が流れる傾向が感じられる。

### 来週以降の見通し

#### ★しばらくは神経質な展開か

日経平均想定レンジ **21,000～22,500円**

##### 来週以降の注目材料

- ・米朝首脳会談に関する報道
- ・米通商政策に関する動向
- ・米利上げ関連の報道、米長期金利の動き
- ・米株価と原油価格の動き

##### リスク要因

- ・米政権の動き/関連報道
- ・北朝鮮動向
- ・原油価格と為替市場の乱高下
- ・メガバンク株価のピークアウト

来週の日経平均は、米通商政策、北朝鮮動向ともに結論が見えず、神経質な動きとなる可能性があるだろう。

今週の日米株価を動かす最大の要因となったのは米通商政策と米朝首脳会談の発表だろう。米通商政策は、米議会の意見がまとまっておらず、米産業界に反対する声もある。中国やEUなどが報復関税を導入する可能性もあるし、対象国がどうなるかもまだまだ流動的だろう。米国にとって最大の貿易赤字国中国から何がしかの譲歩を取り付けるための材料としてちらつかせてただけ実際には実施しない可能性も否定できない。分かっているのは、簡単には結論が出ずに来週も不透明感が残る可能性だ。

米朝首脳会談も、北朝鮮側が非核化に同意しなければ危険は去らないし、非核化/核保有は北朝鮮の最大の切り札でもあるので、単純には行かないだろう。分かっているのは、来週以降も不透明感が残る可能性だ。

ちなみに今週は日本株全体の弱さを感じる。多くの株式指数は昨年末の水準を回復しており、日本株も米ドル建て指数ではほぼ回復している。ただし、今週の日米株の動きは米ドル建てでも少し弱め。景気や企業業績は安定しているが、追加のプラス材料が無いこともありそうだ。

次頁にコラム「徒然なるままに」

## 徒然なるままに

世の中、電子マネーの利用が増えているのはご存じの通り。日銀の統計によれば、発行枚数は17年末で3億5833万枚。決済件数は15年に前年比15.8%増、16年11.0%増、17年4.5%増と増え続け、決済金額は17年に5兆円を超えている。クレジットカードも負けてはいない。17年3月末時点で発行枚数2億7201万枚で前年比2.3%増、クレジットカードショッピングの信用供与額・残高ともに増加が続いている。

電子マネーが登場したのは2001年。それ以来、コンビニなどでの現金、特に硬貨の使用はどんどん減っていると思う。当然、お札と硬貨の流通量も減っていると思いがちだ。ところが日銀の統計によると、何とほとんどの紙幣と貨幣の流通残高が増え続けているのだ。流通高は月ごとに変動し、年末と4月に増える傾向にあるため、12ヶ月移動平均値での年間増加率をみると18年2月時点で日銀券(紙幣)は+4.4%、1万円+4.6%、5千円+2.0%、2千円0.2%、千円2.3%、500円-0.9%。貨幣(硬貨)は合計が+1.1%で、500円玉+2.4%、100円玉+1.0%、50円玉+0.3%、10円玉-0.1%、5円玉-0.6%、1円玉-0.5%。さすがに1円玉、5円玉、10円玉は減少しているが、50円玉、100円玉、500円玉は流通高がいまだに増えている。しかも硬貨は05年以降に減速傾向が見られていたのが、16年後半から増加率が再び増える傾向にある。紙幣も15年以降は増加基調がみられる。もちろん利用シェアは電子マネーやカードの伸びが上回っていると考えられるが、景気拡大の後押しもあり、現金の使用も増えているようである。

そして驚いたのが、今は見ることが少なくなった2千円札の流通高がわずか0.2%増ではあるが増えていること。2000年の登場後、早くも04年には減少に転じたのだが、直近数年は減少率も1%未満に留まり、17年から増え始めているのだ。

理由は沖縄にあるらしい。戦後、米国占領時代は米ドル札が流通していたが、米ドルは高額紙幣が敬遠される傾向が強く、今も昔も20ドル紙幣が流通の中心の紙幣。沖縄県民は「2」のお札に慣れている可能性を指摘する声がある。しかも、2千円札の表には首里城の守礼門が描かれている。地元だけに親しみが湧きやすいだろう。ちなみに沖縄県観光振興課は、2千円札流通促進活動を続けているそうだ。2千円札の意外な一面を見た気がする。

## リスクおよび手数料等の説明

**株式取引は、株価の変動等により損失が生じるおそれがあります。**

- 株式取引の委託手数料はインターネット経由の場合1日の約定代金の合計により決定し、100,000円(税抜)が上限です
- 上場有価証券等書面、取引規程、取引ルール等をご覧いただき、内容を十分ご理解のうえ、ご自身の判断と責任によりお申込みください
- 口座基本料は個人の場合には原則無料です  
※各種書面の郵送交付には、年間1,000円(税抜)をご負担いただく場合があります
- 本レポートは、当社が信頼できると判断した情報に基づき記載されていますが、その情報の正確性および完全性を保証するものではありません
- 本レポートは、お客様への情報提供を唯一の目的としたものであり、投資勧誘を目的として作成したものではありません
- 投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします
- 本レポートに掲載された情報の使用による結果について、当社が責任を負うものではありません
- 本レポートに掲載された意見や予測等は、レポート作成時点の判断であり、今後、予告なしに変更されることがあります
- 本レポートの一切の著作権は当社に帰属します。いかなる目的であれ、無断複製または配布等を行わないようお願いいたします

次回発行予定：3月16日(金)17:00以降

業者名等 松井証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第164号  
加入協会名 日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会